

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6 年 1 月 20日

てらびあぼけっと港南桜道教室

保護者等数(児童数) 38 回収数 11 割合 29 %

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	11					
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	11					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	11					
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	11					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11					
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	11					
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	1					
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3		5	3	幼稚園等で交流できているので問題ない	幼稚園や保育園に通っている為、特別な交流は必要ない
保護者 への 説明 等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	11					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	3	4	3	1	特別なプログラムでなく、困りごとにその都度相談に乗ってくださるので充分	事業所内相談にご両親で来られ、相談に応じている。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	11				セラピー記録や、当日の活動のフィードバックが丁寧で助かっている。	「帰りの会」の前に保護者と話し合う時間を持っている。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	11					
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	1	7	2	コロナ以前は持たれていたが、最近持たれていない	働いている保護者も多く、同じ時間の利用者の保護者は自然に交流できている。
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11					
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	11					
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	11						

非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	6	2	2	1	マニュアルは策定されている。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	1	2	4	消防と連携を取り、早急に実施する。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	10	1			
	23	事業所の支援に満足しているか	11				

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 1 月 20日

事業所名 てらびあぼけつと港南桜道教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	2 職員の配置数は適切であるか	6			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	56			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			規模が小さい為、第三者機関の評価は受けていない	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		てらびあぼけつとの本部で行われているLABOを活用し研修している	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		その時間帯の利用メンバーにより集団の遊びを取り入れている	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		振り返りの為のレポートを共有しているが、協議できる時間を確保する
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	児発管と療育センターとで連携を取っている	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	幼稚園や保育園に通っている利用者が多い	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4		児発管が参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		申し出には必ず応じていて、気になることがあれば、こちらから声を掛けている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		保護者同士の時間が合わない為子どもの利用時間を利用して親同士の交流を図る
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			月に1回、「さくらみちだより」を発行し教室の情報を発信している	
38	個人情報の取扱いに十分注意している	6				
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	4			

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	4	マニュアルは策定できているが、消防署より、しばらく待つように指示されている	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	4	コロナの為	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4			食に関するプログラムは親の判断による
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		即日に記入し掲示、伝えている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		該当者なし	

職員による自己評価

A環境面

大部屋と個室があり、十分なスペースを確保している。
必要に応じて職員の配置が出来ている。
掃除は分担し朝も帰りも徹底して行っている。

B児童への支援内容

定期的に全職員が本部の研修に積極的に参加出来るよう心掛けている。職員間で連絡を密に取って横連携を取っている。

また教材に変化を加えてマンネリ化しないようにしている。

C関係機関との連携

自立支援協議会の参加や、療育センター、他の事業所、幼稚園、保育園訪問や共有を図っている。

D保護者への説明責任・信頼関係

事業所内にて保護者の相談を行い、寄り添う姿勢を大切に取組んでいる。

E非常対応

避難訓練は今後行っていく様にする。虐待防止研修の実施して職員全体で意識している。

保護者による評価

A環境面

いつも綺麗に保たれており安心して通わせられる。
先生の数も多く、専門性がある。

B児童への支援内容

困りごとに柔軟に応じて相談に乗って下さったり、フィードバックも丁寧な対応で十分満足している。

C事業所からの情報発信

月に一度の「さくらみちだより」で教室の情報を発信している。

D非常対応

教室の玄関に掲示されているのでマニュアルは公開されている。

事業所内での分析

【共通点】

衛生面には配慮が行き届いている。
要望に応じた療育を工夫して行っている。
お子さまや保護者に対して一人一人に寄り添う、あたたかな支援をしている。
保護者からも非常に喜ばれている。

【相違点】

避難訓練の実施等は保護者が把握していない。
→ 避難訓練はコロナ禍の際に消防と連絡を取り合っていたが、現状は控えた方がいいとの指示で行っていなかったが、今後は時間を作り取組んでいかれるよう心がける。

分析・検討してみて…

事業所の強み

大部屋と個室があり、活動に応じて広いスペースを有効活用している。

スタッフの個性を最大限活かせるように配慮し、セラピーでお子様により良い支援を提供出来る様働きかけている。

保護者様に寄り添うことを心掛け、相談の要望があれば必要に応じて対応できている。

個別療育を実施しており、個に応じた支援の提供ができています。

事業所の改善点

社員研修の実施がなかなか時間も取れずにいたが、今後は時間を作る為の工夫をして、密に話し合いやケース検討の機会も作ってけるようにする。

事業所の改善への取り組み

これからもセラピーの質の向上を目指す。

子どもの接し方や保護者様対応について社内研修を行う。

引き続き事業所内相談や関係機関連携の実施を続けていく。

いままでよりも自立支援協議会の参加などで、他事業所との関わりも多く持てるようにしていきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

日々のお悩みや心配事を聞く機会を設けることで、保護者様の安心感に繋がっていると感じた。

これからも寄り添う姿勢を大切にして支援を続けていきたい。

スタッフ間のチームワークの良さも強みになっていると感じるので、

相談しやすく働きやすい環境を整えていきたい。

事業所名 てらびあぼけっと港南桜道教室

担当者 管理者 佐藤良子